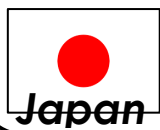


# 架け橋



JICA 海外協力隊 2021 年 1 次隊

ナミビア 小学校教育

ウサコス エロンゴサ小学校

川畑 舞



## 第 21 「体育の授業」号

(2022 年 12 月発行)

### 1、一学期の体育授業

今回は、エロンゴサ小学校の体育の授業の様子についてお伝えします。

2022 年度、4-7 年生の児童は、週に 1 回体育の授業がありました。一学期は、体づくり運動や縄跳び、リレー、サッカー、ネットボール（ドリブルをしないバスケットボールのようなスポーツ）などに取り組みました。しかし、女子はネットボール、男子はサッカーしかルールを知らなかったり、取り組んだことがなかったりする子供たちは、色々な運動に興味をもつことができず、男子は「サッカーがしたい!」、女子は「ネットボールがしたい!」といつも言っていました。ただ、学校の授業でサッカーとネットボールばかり取り組んでいる訳にはいかないですし、男子は、毎日、夕方にサッカー場でサッカーをしています。女子は、毎年、ネットボール大会があり、その近くになると毎日練習をしています。彼らの文化的な背景を理解しつつ、サッカーとネットボール以外にも興味をもてるスポーツをつくり、運動の幅を広げられないかと考えました。

リレー



ネットボール（簡易ルール）



### 2、二学期の体育授業

二学期は、「ベースボール型」のスポーツに取り組むことに決めました。ハンドベースやキックベース、野球などです。子供たちは、サッカーやネットボールなど「ゴール型」のスポーツ経験はありますが、ベースボール型はありませんでした。なので、まずはルールを理解するところから授業を始めました。ホワイトボードにコートを描き、マグネットを使ってボールや人の動きを説明しました。その後、試しのゲームとしてハンドベースを行いました。ハンドベースでは、コートの幅を狭くしてルールを理解することに重点を置きました。人生で初めてベースボール型のスポーツに取り組んだ子供たち、しかも体育の授業は週に 1 回、友達にルールを教えられる子が一人もいない中で、結局、ルールを理解するのに 3 時間以上かかりました。しかし、徐々にルールの分かる児童が増えてくると、子供たちより「サッカーがしたい!」「ネッ

トボールがしたい！」という声を聞かなくなり、自分たちでベースボール型のコートを作ったり、チームで準備運動をしたりするようになりました。

ハンドベースを通してルールを理解した後は、コートを広げてキックベースに取り組みました。コートを広げたら、より大きく動いたり遠くにボールを投げたりしなければいけないので、技術レベルは上がります。しかし、そんなことを気にすることもなく、子供たちは転がされたボールを思い切りキックして、楽しんでいました。

広いコートに慣れてきたら、コートはそのままにし、小さいボールを使って再びハンドベースに取り組みました。ボールが小さくなったため、打たれたり投げられたりしたボールをキャッチするのがかなり難しくなります。案の定、子供たちはバウンドするボールを止めることができず、毎回、奥の草むらまでボールを追いかけていました。そこで、ボールの空気を少し抜き、バウンドが易くなるようにしました。

最終的に、簡易ルールの野球に取り組みました。一人の児童が体育の授業のためにクリケットのバットを寄付してくれたので、それを有り難く使わせていただきました。人生で初めて、バットを使ってボールを打つという経験した子供たちでしたが、意外に空振りをする子が少なくて驚きました。

ポイントの取り方、アウトの取り方、3アウトで攻守交替することなど、初めは何も知らなかった子供たちですが、そのルールを知ることで、そのスポーツを楽しんだり、そのスポーツに興味をもったりすることができるようになります。今回の授業を通して、子供たちだけでハンドベースやキックベースに取り組んだり（ボール1つあればできるので）、子供たちの中にオリンピックやパラリンピックでベースボール型のスポーツ観戦を楽しんだりする子が現れたらとても嬉しいです。

ハンドベース（大きいボール）	キックベース
	
ハンドベース（小さいボール）	野球（簡易ルール）
	